

電波時計（置・掛兼用デジタル時計）取扱説明書

～ 製品の特長 ～

- 標準電波を受信して日付・時刻を自動修正
- 1ヵ月カレンダー表示
- 記念日などカウントダウン・カウントアップ表示
- 温度・湿度表示

お買い上げいただきありがとうございます。
お使いになる前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
お読みになった後もお手元に保管して、必要に応じてご覧ください。

アフターサービスについて

この時計のアフターサービスは、お買い上げ販売店がいたします。つぎの記載事項と保証書をよくお読みの上、ご利用ください。

●修理部品の保有について

この時計の修理用性能部品（電子回路など）は製造打ち切り後、7年間で標準に保有しています。ただし、外装部品（ケース類）の修理には、類似の代替品を使用したり、現品交換させていただくことがあります。

●修理可能期間について

無料保証期間が過ぎても、この時計の性能部品保有期間中は、原則として有料修理が可能です。ただし、修理には販売店と修理工場の往復運賃・諸掛り費用も加わり、商品により修理代金が高額になる場合がありますので、販売店とよくご相談ください。

●転居または贈答品の場合

転居または遠隔地からの贈答品で、お買い上げ販売店でのアフターサービスが受けられない場合は、お客様相談室にご相談ください。（保証期間中の場合は、販売店の保証書が必要です。）

発売元 **リズム時計工業株式会社**

〒330-9551 埼玉県さいたま市大宮区北袋町1丁目299番12
http://www.rhythm.co.jp

お問い合わせ先 **お客様相談室 0120-557-005**
受付時間 9:00～17:00（土日、祝日および当社休日を除く）

お問い合わせに際しては、製品番号（型番）「BRZ105」をお伝えください。

CITIZEN はシチズンホールディングス株式会社の登録商標です。

(Y1003)

安全にお使いいただくために（はじめにお読みください）

ここに示した注意事項は、あなたや他の人への危害や損害を未然に防ぐためのものです。必ず守ってください。

■表示の説明について

表示内容を見誤り、誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、下記の表示で区分して説明しています。

-  「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
-  「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

お守りいただく内容の種類を、下記の表示で区分して説明しています。（表示の一例です。）

-  してはいけない「禁止」内容です。
-  必ず実行していただく「強制」内容です。

■誤飲による事故防止について

 小さな部品や電池は、幼児の手の届かないところに置かないでください。万一、飲み込んだ場合は、すぐに医師の治療を受けてください。

 分解したり改造しないでください。故障の原因になります。

 本製品は精密機器です。落としたりして衝撃を与えないでください。故障や破損の原因になります。

液晶表示板について

 表示部が破損して液晶が手などについた場合は、石鹸でよく洗い流してください。口や目に入ったときは、きれいな水で洗い流し、すぐに医師の治療を受けてください。

■使用場所について

 下記のような場所では使わないでください。機械やケース、電池の品質が低下し、精度不良や時計、電池の寿命が短くなります。

- 温度が+50℃以上になる所。例えば、長時間直射日光のあたる所や暖房器具等の熱風や火気に近い所。
- 温度が-10℃以下のところでは、プラスチックが劣化したり、電池の性能が低下することがあります。
- 浴室など湿気が多いところ。
- ほこりが多く発生するところ。
- テレビ・OA 機器・オーディオのそばなど強い磁気が発生する所。磁気の影響で、時計の進みや遅れが生じたり、止まることがあります。
- 車中や船舶、工事現場など、振動の激しい所。
- 温泉場など、ガスの発生する所。
- 多くの油を使用する所。霧状になった油分がケースや機械部に付着し、汚れや止まりの原因になります。
- ポリ塩化ビニルに長い間、直接ふれさせておくと、相互に色移りしたり、付着することがあります。

時計の廃棄

- お住まいの自治体の指定にしたがってください。

お手入れについて

- 汚れがひどいときは、水でうすめた中性洗剤や石けん水を、やわらかい布に少量つけてふき取り、その後、からぶきしてください。
- ケースなどのよごれ落としに、ベンジン、シンナー、アルコール、スプレー式クリーナー類は、使用しないでください。
- 静電気により、時計や掛けた壁面が汚れることがありますので、定期的に汚れを落としてください。

おもな製品仕様

使用温度範囲	-10～50℃	液晶表示可読温度範囲	0～40℃
時間精度	表示精度 標準電波を受信しない場合 平均月差 ±30 秒（常温中のクォーツ精度）	標準電波受信成功直後	±1 秒
使用電池	単3形マンガン乾電池 JIS 規格 R6P	2個	
電池寿命	約1年		
標準電波	カレンダー・時刻自動修正		
受信局	福島局 / 九州局	自動選択	
受信機能	スライドスイッチでON/OFF切り替え		
受信回数	8回 / 日		
受信時刻	1時～4時、13時～16時の各時間帯の16分40秒から受信開始		
手動時刻合わせ	ボタン操作		
カレンダー	2002～2099年まで対応	手動時刻合わせでは、	2010～2099年まで
六曜表示	2002～2030年まで対応		
カウントダウン (カウントアップ)	最大999日まで表示		
温度表示	表示範囲 -9.9～+50℃		
	表示範囲での精度 ±2℃		
湿度表示	表示範囲 20～95%（温度が5～50℃の範囲のとき）		
	表示範囲での精度 ±10%		

※液晶はその特性上、0℃以下になると表示反応が遅くなり、表示が薄くなる場合があります。40℃以上になると表示が濃くなり、ムラに見えることがあります。

※液晶表示板は5年を過ぎると、コントラストが低下して数字が読みにくくなる場合があります。

※アルカリ乾電池を使用することができますが、マンガン乾電池と混ぜて使わないでください。

※製品仕様は改良のため予告なく変更することがあります。

付属品

単3形マンガン乾電池	2個	木ねじ	1個	取付金具	1個	くぎ	4本
取扱説明書	本書	保証書	1枚				

電波時計について

電波時計とは

電波時計は、正確な時刻およびカレンダー情報をのせた標準電波を受信することにより、自動的に表示時刻を修正し正確な時刻をお知らせする時計です。

標準電波とは

標準電波(JJY)は、日本標準時(JST)をお知らせするために、情報通信研究機構が運用している電波です。

※標準電波の時刻情報は、およそ10万年に1秒の誤差という「セシウム原子時計」によるものです。標準電波送信所は、福島県の「福島局;おおたかどや山標準電波送信所」と佐賀県と福岡県の県境にある「九州局;はがね山標準電波送信所」の2ヵ所あります。

標準電波の詳細については、情報通信研究機構のホームページをご覧ください。

(http://jjy.nict.go.jp)

標準電波の送信停止について

送信所の定期点検や落雷などの影響により、標準電波の送信が停止することがあります。標準電波の送信状態については「情報通信研究機構」のホームページをご覧ください。

海外でのご使用について

この時計は、日本以外の標準電波は受信できません。海外で使用した場合、まれに日本の標準電波を受信し、日本の標準時を表示したり、ノイズにより誤った時刻を表示することがありますので、電波受信機能をOFFにして、手動で時刻を合わせてください。

電波を受信しにくい環境

次のような場所では受信できない場合や誤った時刻を表示することがあります。

- 工事現場、空港の近くや交通量の多いところなど電波障害の起きるところ
- 金属製の雨戸やブラインドの近く
- ビルの地下など
- 高圧線、テレビ塔、電車の架橋近く
- 朝夕の時間帯、雨天のとき
- 家電製品やOA機器の近く
- スチール机等の金属製家具の上や近く



電池のご注意（電池の正しい使い方）

電池のご使用上のポイント 正しく使って事故をなくしましょう

- プラス（+）、マイナス（-）を間違えない。
- 種類の異なる電池を混ぜない。
- 長期間使用しないときは電池を取り外す。
- 電池に表示されている使用推奨期間内に使う。
- 幼児の手が届かないところに置く。
- 古い電池と新しい電池を混ぜない。
- 時計が動いていても定期的に交換する。
- 時計が止まったらすぐに電池を取り外す。
- 電池を新しくするときは、全部取り替える。

電池の種類について

- 本製品は電池の特性に合わせて設計されています。指定以外の電池では、製品仕様を満たさない場合や正常に機能しないことがあります。
- アルカリ乾電池とマンガン乾電池は形状的に互換性があり、一般にアルカリ乾電池のほうが長持ちします。Ⓢ **アルカリとマンガン乾電池の混在使用は液もれの原因となりますのでおやめください。**
- 一般に充電式の電池は電圧が低く、時計には不向きですので使用しないでください。
- 一部の高性能電池では、初期電圧が高く時計には不向きな場合があります。（例：Panasonic オキシライド乾電池）

取り扱いについて

電池からの液もれや発熱、破裂を防止するために、つぎのことをお守りください。

-  ●電池に傷をつけたり、分解しない。
-  ●電池を充電しない。
-  ●時計が止まったらすぐに電池を取り外す。
- 電池をショートさせない。
- 時計を使用しないときは電池を取り外す。

液もれが起きてしまったとき

 電池からもれた液が目や皮膚についたら、すぐに水道水でよく洗い流して医師の治療をうけてください。アルカリ乾電池の場合、失明や炎症などの障害が発生する危険性が高くなります。衣服に付着した場合は、すぐに水道水で洗い流してください。

 もれた液に直接触れないでください。特にアルカリ乾電池には注意してください。ゴム手袋をして電池をはずし、もれた液を布や紙でよくふき取ってください。修理が必要なときはお買い上げの販売店または当社お客様相談室にご相談ください。

電池の寿命について

- 付属の電池は、工場出荷するときに入れていますので、製品仕様より短い期間で電池切れになることがあります。
- 使用環境の温度などにより、製品仕様より電池寿命が短くなる場合があります。
- 買いつきの電池を使用した場合、保管状態や乾電池に示されている「使用推奨期限」により、電池寿命が短くなる場合があります。

電池の廃棄

- お住まいの自治体の指定にしたがってください。

 火に入れると破裂の原因となり危険です。

Ⓐ 電波受信機能のON/OFF切り替え

受信機能 OFF（無効にして手動で時刻を合わせる） 受信機能 ON（有効にして受信を開始する）

電波受信スイッチをOFFにしてください。 電波受信スイッチをONにして、リセットボタンを押してください。受信を開始します。

○日付および時刻は手動で合わせてください。 ○標準電波を定期的に受信して日付・時刻を自動修正。

Ⓑ 強制受信とリセット操作

強制受信ボタン 場所を移動したときなど電波の受信を試みたいときに使います。受信に失敗しても継続して時刻を表示します。

○手動で時刻合わせをしているときは機能しません。

リセットボタン 電池を入れた直後や静電気などにより誤作動したときに押します。リセット直後は、日付と〈設定日〉は2010年1月1日になり、時刻は午前12:00になります。

電波受信スイッチがONのときは受信を開始します。

●電波受信スイッチがOFFのときは、強制受信ボタンまたはリセットボタンを押しても受信を開始しません。

Ⓒ 温度と湿度表示

センサーが時計内部にあるため、表示に反映するまでには時間がかかります。

測定範囲を超えたときの表示とその意味

温度「HH.H」50℃より高温 「LL.L」-9.9℃より低温

湿度「HH」95%を超えている 「LL」20%未満 「-」測定不能（温度が5～50℃の範囲外）

設置場所について

空気がよく循環する場所に設置してください。直射日光の当たる場所や冷暖房器具、加湿器、除湿器などの近くを避けてください。

つぎのような場所では使用しないでください。

温室、サウナ、浴室、冷蔵庫、車の中

湿度は設置場所により変わります

湿度は「空気のかたまり」として移動するため、同じ室内でも風通しのよいところと悪いところでは違いがでてきます。

Ⓢ本製品は室内用です。室内の温度・湿度計測以外の目的では使用できません。また厳密な温度・湿度管理を行う用途には適していません。

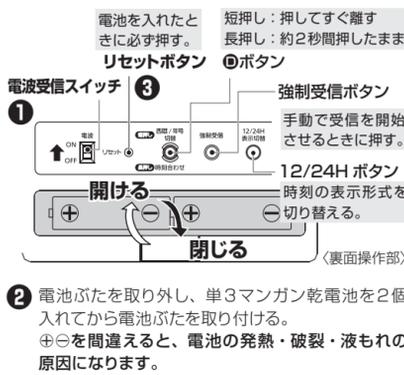
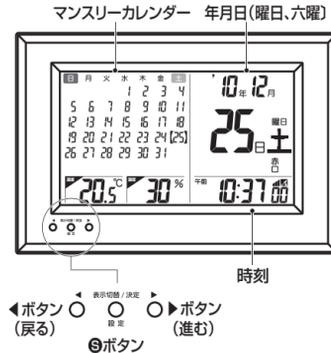
静電気の影響について

静電気により、正常に機能しなくなることがあります。このようなときには強制受信ボタンを押してください。

1. 電池を入れて時刻を合わせる

図は操作説明用ですので実際の商品と異なることがあります。

液晶の特性として、見る角度によって、見えにくくなったり、ムラに見えることがあります。



標準電波を利用しないで、手で時刻を合わせるときには、「電波を受信できない場合」の「手動での時刻合わせ」をお読みください。

電波を受信しやすい際などに置いてください。

- 電波受信スイッチをONにする
- 電池ホルダーの⊕表示に合わせて単3形マンガン乾電池を2個入れる
- リセットボタンをボールペンの先などで押し、受信マークが点滅し受信を開始します
 - 電池を入れた後は、必ずリセットボタンを押してください。
 - 受信中はボタンに触れないでください。
- 受信結果を確認する [受信の流れと表示] 参照
 - 最長で約20分間受信を行いますので、終わるまで待ちます。
 - 受信マークで受信結果を確認してください。
 - 点滅: 受信中 点灯: 受信成功 消灯: 受信失敗→「電波を受信できない場合」へ

【受信の流れと表示】

〈リセットボタンを押した直後〉
(表示の一部)



※電源投入直後およびリセットボタンを押した直後は、2010年1月1日 午前12:00に設定されます。



受信マークは受信成功後、24~25時間点灯

電波受信中のボタン操作について

電波の受信中に◀または▶ボタンを押すか、⊙ボタンを約2秒間押しつづけると、受信マークが消灯し受信を中止します。

受信マークの変化

電波の状態により変化します。(電波サーチ機能)



チェック!

1~2分経過しても①または②の受信状態が続く場合は受信できません。場所を変えてリセットボタンを押し、再度受信を開始させてください。



※受信に失敗した場合は、時刻や日付は正しくありません。

受信成功を示しても、電氣的なノイズにより誤った時刻や日付を表示することがあります。このようなときには、場所を変えてからリセットボタンを押して、再度受信を試みてください。

電波を受信できない場合

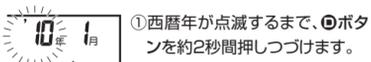
- 朝までそのまましておく
 - 一般的に、夜間は電波状態が良くなるので、手動で時刻合わせをして一晩そのままにしておくとう受信できる可能性が高くなります。
- 場所を変える/受信をやり直す
 - 電波の受信しやすい窓ぎわで取扱説明書の日本地図を参考にして電波の送信所に時計の正面または裏面が向くように置き直し、リセットボタンを押して結果を確認します。

受信できない場合は、下記の操作で日付と時刻を合わせることでご利用になれます。

■手動での時刻合わせ

- ⊙ボタンを西暦年が点滅するまで約2秒間押しつづけます。日付は西暦年での設定になります。
- 操作例に従って、西暦年、月、日、時刻(時、分)の順に設定します。
 - ◊◊◊または▶ボタンを押して数値を合わせます。押しすぐ離すと1つ単位に変わり、押し続けると連続して変わります。
 - ◊⊙ボタンを押すとつぎのステップに移ります。
- 電波受信機能が[ON]の場合、手動で時刻合わせをしても、自動受信を行い、受信に成功すると日付と時刻を修正します。
 - 裏面の 電波受信機能のON/OFF操作 参照
- 約30秒間ボタン操作をしないと、表示されている内容に設定して、手動時刻合わせを終了します。
- 電波を受信できない場合は、平均月差 ±30秒になります。
- 時刻は12時間と24時間の表示がありますので、時刻を合わせるときに注意してください。
- 電波の受信中に⊙ボタンを約2秒間押し続けると、受信を中止して時刻合わせ状態になります。

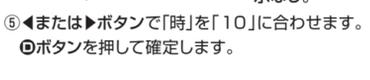
操作例. 西暦2010年12月25日 午前10:37に合わせる



①西暦年が点滅するまで、⊙ボタンを約2秒間押しつづけます。



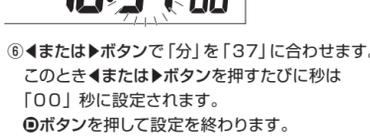
②◊または▶ボタンで「年」を「10」に合わせます。⊙ボタンを押して確定します。



③◊または▶ボタンで「月」を「12」に合わせます。⊙ボタンを押して確定します。



④◊または▶ボタンで「日」を「25」に合わせます。⊙ボタンを押して確定します。

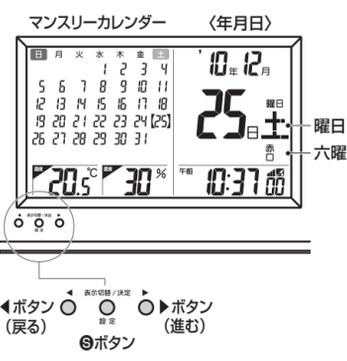


⑥◊または▶ボタンで「時」を「10」に合わせます。⊙ボタンを押して確定します。

⑦◊または▶ボタンで「分」を「37」に合わせます。このとき◊または▶ボタンを押すたびに秒は「00」秒に設定されます。⊙ボタンを押して設定を終わります。

2. カレンダー

〈通常表示〉



マンスリー表示 ひと月分のカレンダー

通常状態のときに、◊または▶ボタンを押すと他の月を参照することができます。

◊(年月日)の月または日が点滅しているときに⊙ボタンを押すと移動単位が「月」⇄「日」に変わります。

月が点滅中: ◊または▶ボタンで月が変わる。

日が点滅中: ◊または▶ボタンで日を移動させて、六曜を見ることができます。

○約10秒間操作をしないと通常表示に戻る。

○カレンダーは2002~2009年まで対応。

○六曜は2002~2030年まで対応。

○◊(年月日)に対応する日は【】付で表示されます。

六曜について
旧暦の月と日から導きだされ、先勝・友引・先負・仏滅・大安・赤口の6種類があります。

※六曜は慣習として使われていますが公的な機関が定めたものではありません。

年の表示 西暦/平成切り替え

⊙ボタンを押してすぐ離すと西暦と平成が切り替わります。

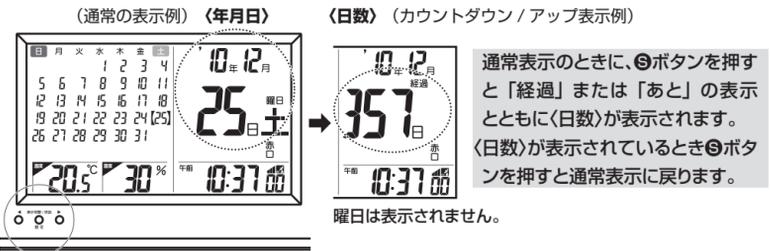


西暦2000年代の末尾2桁表示。平成99年を超えると「--」表示。

3. カウントダウン/アップの使い方

カウントダウン (あと○日): 設定日までの日数

カウントアップ (○日経過): 設定日からの経過日数



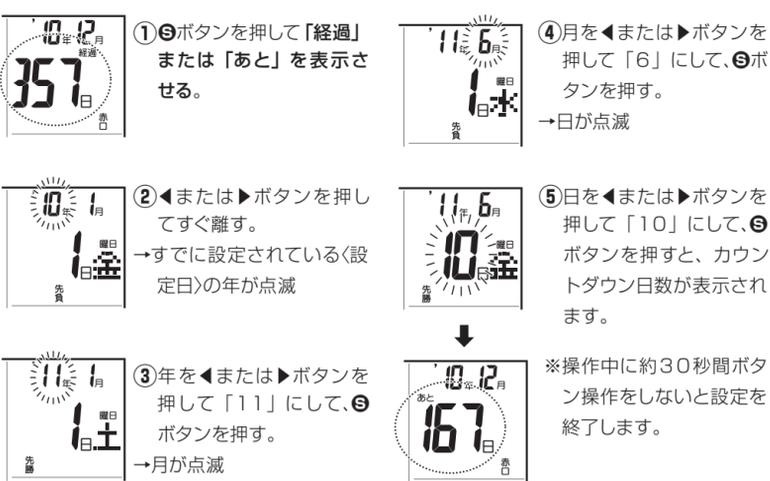
通常表示のときに、⊙ボタンを押すと「経過」または「あと」の表示とともに(日数)が表示されます。(日数)が表示されているとき⊙ボタンを押すと通常表示に戻ります。

曜日は表示されません。

- 電池を入れた直後やリセットボタンを押すと、2010年1月1日が設定日になります。
- カウントダウン/アップの機能を無効にすることはできません。
- 日数が999日を超えたときは、「---」表示になります。
- マンスリーカレンダー上の(設定日)は、日にちが点滅します。
- ◊(年月日)に該当する日は、【】で囲まれます。
- 電波受信中は、カウントダウン/アップの表示に切り替わりません。

〈設定日〉の操作手順

日付が2010年12月25日のときに、〈設定日〉を2011年6月10日にする操作例



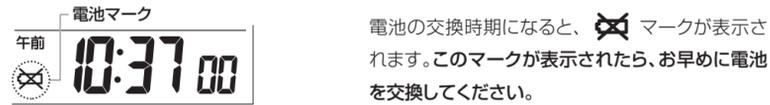
4. 12/24時間表示の切り替え 12/24Hボタン



12/24Hボタンを押すと、午前/午後付の12時間表示と24時間表示を切り換えることができます。

●電波の受信中や手動で時刻を合わせているときは切り替えできません。

5. 電池の交換時期お知らせ機能



電池の交換時期になると、マークが表示されます。このマークが表示されたら、お早めに電池を交換してください。

電池の交換について 早めに交換して液もれを防ぎましょう

電池からの液もれにより、時計の修理や家具などの修繕に費用が発生することがあります。電池からの液もれや発熱、破裂を防ぐために、つぎのことをお守りください。

- 液晶表示が薄くなったり、アラーム音が鳴らなくなったときは、速やかに指定の電池に交換するか、電池を取り出す。
- 動いていても1年に1回定期的に交換する。
- 電池の⊕を逆に入れない。
- マンガン乾電池とアルカリ乾電池を混ぜて使用しない。

掛ける 掛け方が不適切な場合、時計が落下する危険があります。

- 垂直に掛けてください。傾くと掛け具から外れる恐れがあります。
- 掛けたときは、上下、左右に軽く動かして、壁掛け穴に掛け具(木ねじや取付金具)がしっかり掛かっていることを確認してください。
- 市販の掛け具を使用するときは、壁掛け穴にしっかり掛かるものを選んでください。
- ドアを開閉するときの振動が伝わらないところに設置してください。

石こうボードの壁面の場合

- 付属の取付金具を使用できる場所は、石こうボードの壁面です。
- 取付金具は下図の通り、付属のクギ4本でしっかり固定してください。

取り付け方 取付金具 タイプA

金具を水平にして①②の順序でクギを打つ。



取付金具 タイプB

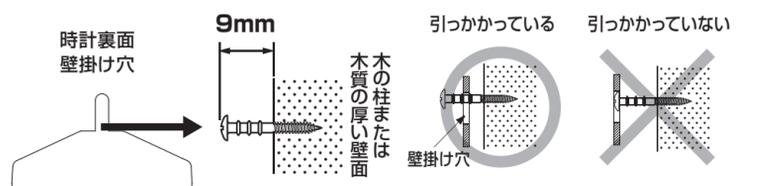
クギ



- 壁の材質、取り付け方法を確認の上で使用ください。
- 付属する取付金具のタイプに応じた取り付けをしてください。
- 取付金具は水平に取り付けてください。傾けて取り付けると時計が傾きます。
- クギは取付金具の穴に対して、垂直に押し込んでください。
- 取付金具には、3.5kg以上のものは掛けないでください。

木の柱または木質の厚い壁面の場合

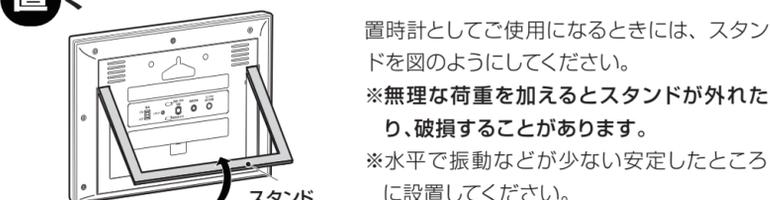
- 付属の木ねじが使用できる場所は、木の柱または木質の厚い壁面です。
- 木ねじは下図の通り、壁面にしっかりねじ込んで固定してください。



その他の壁面の場合

- コンクリートなどの壁面に掛ける場合は、壁の材質・構造と時計の重量に合った、市販の掛け具をご使用ください。その際、両面テープ式や吸盤式は時計が落下する危険がありますので、使用しないでください。

置く



置時計としてご使用になるときは、スタンドを図のようにしてください。※無理な荷重を加えるとスタンドが外れたり、破損することがあります。※水平で振動などが少ない安定したところに設置してください。

掛けて使用するときにはスタンドをきっちり収納してください。